慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	『こころ』を知る、『こころ』を活かす(2012年1月7日 三田キャンパス東館6階G-Sec Lab)
Sub Title	
Author	北中, 淳子(Kitanaka, Junko)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2012
Jtitle	Newsletter Vol.18, (2012. 3) ,p.2- 2
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第5回 京都大学-慶應義塾大学グローバルCOE共催シンポジウム
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000018-0020

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

第５回　京都大学―慶應義塾大学グローバル COE 共催シンポジウム

『こころ』を知る、『こころ』を活かす

（2012年1月7日　三田キャンパス東館6階G-Sec Lab.）

2012年１月７日「第５回 「京都大学―慶應義塾大学グローバルＣＯＥ共催シンポジウム『こころ』を知る、『こころ』を活かす」と題するシンポジウムが、慶大・三田キャンパスで開催された。

第一部では、山本淳一教授（臨床発達科学・慶大）の司会進行の下、各拠点リーダーから以下の報告が行われた。

慶大「論理と感性の先端的教育研究拠点」の拠点リーダー渡辺茂教授（生物心理学）は、「美を求める心の起源を知る」と題する講演で、きわめて人間的な活動とされる芸術鑑賞について、動物を対象に行った実験結果を報告し、美を感じる心の普遍性について論じた。

京大「心が活きる教育のための国際的拠点」拠点リーダー子安増生教授（発達心理学）は「幸福感を紡ぐ教育」と題する講演で、健康や経済状態などから算出される国の「幸福度」が、必ずしも人々の主観的な「幸福感」と一致しないことを指摘し、世界13カ国の８千人を対象にして行った国際比較調査結果から、人はどのようなときに「幸福感」を感じられるのかについて論じた。

第二部では、杉本均教授（比較教育学：京大）の司会進行の下、４つの報告が行われた。

北中淳子准教授（医療人類学・慶大）は「鬱の時代、疲弊する身体：ローカル・サイエンスへ向けて」と題した報告で、日本のうつ病観の歴史的変遷について述べ、ストレスの病として捉える際の問題点を指摘した。

杉万俊夫教授（グループ・ダイナミックス・京大）は、「共に育むコミュニティの創造」と題する講演で、数十年にわたって展開されてきた過疎地域の活性化運動について報告し、再生されたコミュニティの力が、今回の震災時にどのように活きたのかについて論じた。

梅田聡准教授（認知神経科学：慶大）は、「感情を生み出す脳と身体のメカニズム」というタイトルで講演を行い、従来の、脳から身体へのトップダウン的理解に対して、身体から脳への働きかけを明らかにする最新の研究成果を報告し、神経科学の新たな展望を示した。

桑原知子教授（臨床心理学：京大）は、「こころに聴く、こころを生かす―心理臨床の立場から―」と題された講演で、心理療法の実証的研究から、カウンセリングという場で何が起こっているのか――例えばそこでの身体動作や沈黙の用い方が、普通の会話とどのように異なるのか――を分析し、また南極越冬隊員の心理調査から、人はどうやって困難な状況を乗り越えていくのかについて論じた。

第三部のパネルディスカッションでは、杉浦章介教授（経済地理学：慶大）の司会進行の下、第一部、第二部の演者全員とオーディエンスとの、きわめて活発な討論が行われた。

グローバルＣＯＥでは５年間、人文科学から社会科学、自然科学に至るまで、多岐にわたる領域での研究が行われた。その成果を一般の方々とも共有する場として、今回149名にも上る聴講者が参加してくださった（その半数以上が一般の方々であった）ことに感謝したい。「こころ」の問題に対する人々の関心の高さ、そしてグローバルＣＯＥによる研究成果を、社会に還元していくことの大切さをあらためて感じる機会となった。

（北中淳子）

On the 7th of January, 2012, the fifth joint Global COE symposium of Kyoto University and Keio University was held at Keio University on the theme of how to understand the human mind. Six researchers from the two GCOEs reported their latest findings from the perspectives of evolutionary psychology, developmental psychology, medical anthropology, group dynamics, cognitive neuroscience, and clinical psychology. This symposium was open to the public, students as well as researchers. The presentations were followed by active discussions on issues related to “kokoro,” which ranged from analyzing the human mind from laboratory animal experiments, understanding those who are psychologically distressed, to rebuilding communities in post-quake Japan.